

## 【大会競技規則】

- ①「2021年公認野球規則」「全日本軟式野球連盟規定学童の部」及び「IBA大会特別規則」を適用する。
- ②大会使用球は「IBA公認C球」とし、バットは「JSBB」マーク入り「全日本軟式野球連盟公認」のものに限る。
- ③ヘルメットは、「JSBB」マーク入りを用意し、打者、次打者、走者、ベースコーチ（監督・コーチは除く）が必ずヘルメットを着用する事。
- ④捕手は、試合中はもちろんシートノック時も「JSBB」マーク入りのプロテクター・レガース・マスク・ヘルメット及びファールカップを着用する事(控えの捕手も着用を義務付ける)
- ⑤チーム編成
  - ・選手 20名以内(0~27 31~99) 監督 1名(30) コーチ 2名(28 29)
  - ・代表 スコアラー等 2名以内
  - ・選抜チーム 合同チームも参加が可能
  - ・保護者 2名が健康管理(給水を含む)のためベンチに入ることができる。
- ⑥指導者も選手と同じユニフォームでベンチに入る。
- ⑦参加チームは所属する選手、監督、コーチ、スコアラー、審判のために傷害保険に加入することを義務づける。試合中のプレーに関わる事故やケガは、リーグで加入の傷害保険で対応する。
- ⑧メンバー表は、4部提出する。
- ⑨ベンチは、若番が一塁側で攻守は一塁側がメンバー表提出時に一塁側が選択権を持つコイントスにより決める。
- ⑩シートノックは、5分間とするがゲームの進行状態等によっては行わない場合がある。
- ⑪ベンチ前でのキャッチボールは禁止する。
- ⑫次打者はネクストバッターサークルでヘルメットを着用して待機する。(素振り禁止)
- ⑬ラフプレー等、危険を伴うプレーは絶対にしてはならない。
- ⑭本塁投手間・塁間・両翼
  - ・本塁投手間 16.00m、塁間 距離：23.00m、本塁 2 塁間：32.5m、本塁両翼間：60m
- ⑮両翼・中堅を結んで外野のラインが引かれた場合
  - ・打球が直接又はグラブや身体に当たってグラウンドに落下することなくホームランラインを超えた場合はホームランとする。
  - ・その他の打球（ゴロ等）で超えた場合はエンタイトルツーベースとする。
  - ・送球が超えた場合はエンタイトルツーベースとする。

## 【IBA大会特別規則】

- ①試合方法
  - ・6回戦、トーナメント方式。
- ②タイムゲームの採用
  - ・1時間20分を超えて新しいイニングに入らず、均等回の得点をもって勝敗を決する。
  - ・但し、決勝戦のみタイムゲームを採用しない。
- ③コールドゲーム
  - ・4回均等回以降7点差の場合は、コールドゲームとなる。コールドゲームは決勝戦でも適用する。

④4 回均等回以前に試合続行不可能な場合は、特別継続試合を行う。

⑤4 回終了後以降に試合が途中で中断し続行不可能となった場合、最終均等回の得点により勝敗を決する。

継続不能となった場合の勝敗例

a	1	2	3	4	5	6	計
A	0	0	0	1			1
B	0	0	0	1x			1

a. 4回を終了していないため  
サスペンデッドゲームとなる。

b	1	2	3	4	5	6	計
A	0	0	0	0			0
B	0	0	1	1x			2

b. 4回表終了時点で後攻のチームが  
勝っているため試合は成立とする

c	1	2	3	4	5	6	計
A	0	0	0	0	4		0
B	0	0	0	2	0x		2

c. 5回表攻撃で逆転したが、裏の攻撃が完了していないため  
完了した最終均等回の得点で勝敗を決する

d	1	2	3	4	5	6	計
A	0	0	0	0	1		1
B	0	0	0	2			2

c. 5回途中での打ち切りであるが、  
中断時点と5回終了時点の勝利チームが同一であることから  
総得点をもって勝敗を決するため6回表の点まで認める

④特別延長戦（タイブレーク）

- ・ 6 回終了時または 1 時間 20 分を超えたイニング終了時に同点の場合は、無死満塁の状態特別延長戦を行う。打順は継続打順とし、前回最終打者を一塁走者、二・三塁走者は順次前の打者とする。
- ・ 最大 1 イニング行い、勝敗が決まらなければ試合終了時に出場していたメンバー 9 人で抽選を行う。
- ・ 決勝戦においては、決着がつくまでエキストライニングを行うが、何らかの理由で続行不可能となった場合、試合終了時に出場していたメンバー 9 人で抽選を行う。

⑤投手の投球数

- ・ 投手のトーナメントピッチリミットを適用する。
- ・ 1 日の投球リミットを 70 球とする。(投球リミットに達した場合、該当打者が終了後に降板する)
- ・ 1 日 50 球以上投球を行った場合、投手休養日 1 日を設定する。
- ・ 同日の連投及び投手・捕手の兼任はできない。
- ・ 1 試合において 6 回を超えて投球することはできない。
- ・ 連続する 2 試合で 10 回を超えて投球することはできない。
- ・ 投手は 3 日連続登板することは出来ない。
- ・ インコース高めには絶対ウエストボールを投じない。もし、投球がそれで頭部に当たったとき審判員が判断した場合は、投手は交代しなければならない。
- ・ 投手から野手へ守備交代した場合、その選手は再び投手として戻ることができる。その後、野手になることもできる。
- ・ 投手は、一試合で一度だけ、再登板できる。
- ・ 申告敬遠を導入する。申告敬遠に関しては監督が申告する。この場合、実際に投手が投じた投球のみ投球数にカウントする。

⑥リエントリー

- ・ 先発 9 名に限り、一度交代してから再び一度だけ試合に戻ることができる。
- ・ 選手は元の打順に戻ること。複数の交代選手が使われる場合でも、交代した先発選手の打順を変更すること

のないように注意をすること。

・投手が他の選手と交代してベンチに下がった場合は、再び投手として戻ることはできない。但し、野手に戻ることはできる。

#### ⑦コーティシーランナー（臨時代走）

・打者走者、走者が負傷などで治療が長引く場合は、球審は相手チームに伝え、打順の前位者（投手は除く）を臨時代走として試合を進行させる。

#### ⑧監督またはコーチが、投手のところへ行く回数の制限

・監督またはコーチが、同一イニングに二度目のタイムを取った場合に、投手は自動的に交代しなければならない。

※交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。なお、他の守備についても、同一イニングに再び投手に戻れる。尚、監督またはコーチが投手のところへ行く回数は1試合3回までとする。但し投手交代時はカウントしない。

#### ⑨守備タイム・攻撃タイムの回数制限

・守備タイム・攻撃タイムともに1試合3回までとする。

#### ⑩審判に対する規則解釈の確認

・監督に限り確認行為を認める。

### 【 審判員 】

①審判服を着用すること。尚、審判帽子・審判服については、各連盟・地域所定のもので可とする。

②試合を主宰するにあたり、私情を交えることなく、規則を厳格に守らせる責任がある。

### 【その他】

①勝ちあがった場合、次の試合が棄権となるチームの取り扱い

・雨天順延等により、当該試合に勝利しても次の試合に参加できないチームは、当該試合の当日朝までに大会本部へその旨を申し出る事。その場合、当該試合は親善試合として行い、大会記録は申し出たチームの棄権と同様とする。

②注意事項

・ユニフォームは正しく着る事。

・応援等は拍手による応援のみとする。

・試合中における選手または審判員に対する野次や威嚇するような行為は禁止する。違反したときは、審判員または運営委員が退場させることもできる。

・グラウンドに唾を吐くことや、その他グラウンドマナーに反する行為や言動は禁止する。

・サングラスの着用について、帽子の上に乗せるのは禁止

・監督コーチ以外は、ベンチ入りの際はユニフォームを着用してはいけない